

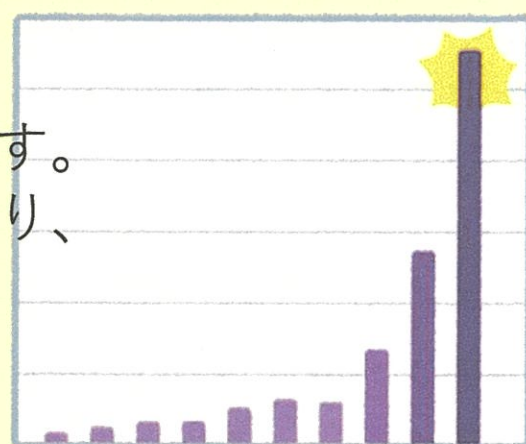
もう一度、しっかりした感染 対策をお願いいたします

①第7波はもはや災害に等しいレベル。

COVID-19第7波の広がりには災害レベルとなっており、医療機関ではCOVID-19以外の通常診療にも支障を来しています。

通常の怪我や病気になっても診療が受けられない様な状況が起き始めています。

1日の全国の死者数は300人を超えており、この様な状況が1ヶ月半も続けば、死者数は東日本大震災の死者数を超えてしまう様な勢いです。



オミクロン株は軽症が多いと言った報道が広がっている為、“単なる風邪の様なもの”と思われるってしまう風潮がありますが、一定数は重症化します。

感染してしまう人が増えれば結果的に重症者も増える事になり、コロナ病床を圧迫します。

“コロナ病床数を増やせ”と言われますが、それは“一般病床数を減らしてコロナ病床に置き換える”事を意味します。こうなってしまうと、通常の病気や怪我での入院が出来なくなる（適切な治療に制限がかかる）事になってしまいます。

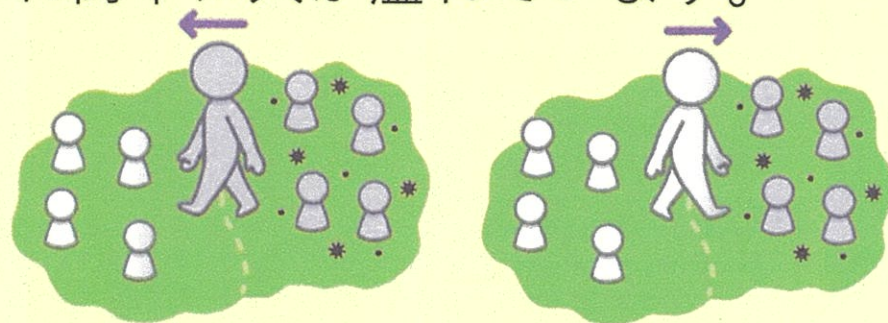
この様な状況が各地で起きています。



もう一度、しっかりした感染対策をお願いいたします

②「行動制限が無く」ても 「感染リスクはガッツリあり」ます。

コロナによる様々な制限が長期化して経済的な負担が看過できなくなってきた事もあり、政府はこの夏から“様々な行動制限を撤廃する方針”を打ち出しました。旅行やイベントが再開され街中に人が溢れています。



しかし、人が集まる場所にはコロナの感染リスクがあります。現在の感染者数から推定すると、30人集まればそのうち1~2人が感染者が含まれていると考えられます。



新型コロナウイルスは発症前の無症状な時期でもウイルスは排出され周りに感染させるリスクがあります。政府の方針は、経済をある程度優先させて感染には目をつぶって国民の意識に期待すると言う事なのでしょう。

皆様ひとりひとりがしっかりと感染防御策を徹底することが大切です。

もう一度、しっかりした感染対策をお願いいたします

③屋外でも

「会話の時にはマスクを着けましょう」

現在蔓延中のオミクロン株は“凶悪なほど感染力が高い”
とされています。

新型コロナウイルスの主な感染経路は
飛沫感染（感染者が排出する飛沫を
吸い込む事による感染）です。

飛沫は咳やくしゃみだけでなく“会話
だけで辺りに飛び散ります。”



飛沫は不織布のマスクを適切に装着する事で大半を防ぐ
ことが可能です。ウレタンマスクや鼻出しマスクでは飛沫
は防げません。

屋外でも会話時には飛沫が飛び散ります。“屋外だから
マスク無し・・・は明らかな間違い”です。

声を発する時には、必ず不織布マスクを着けてください。

そのほかの感染経路としてエアロゾル感染（空気中に漂
う微小な液体の粒子にウイルスが乗っかる形で感染・空気
感染に近い）が考えられています。残念ながらエアロゾル
感染を防ぐのはマスクでは不十分です。一番大事なものは
“換気”です。

エアロゾルを滞留させ無いように十分な
換気を心がけてください。



換気しよう

もう一度、しっかりした感染対策をお願いいたします

④ 3回目のワクチン接種を受けましょう。

65歳以上の高齢者は9割以上の方が3回目～4回目のワクチン接種が進んでいます。

ところが若い世代では3回目の接種は進んでいません。ワクチンは重症化を減らすだけでなく、罹患後症状（後遺症）も減らします。

若い世代の方も3回目のワクチン接種を受けましょう。

またお子様へのワクチン接種も積極的にお考えください。以前に「小児は軽症ばかりだから大丈夫」とか「どんどん罹って自然の免疫をつけた方が良い」と言った暴論がマスメディアなどで報道された事もあり、小児のワクチン接種がなかなか進んでいません。



子供たちでも一定の割合で重症化はあります。不幸にして亡くなることもあります。ワクチンの接種が少ない地域では明らかに重症例や死亡例が多くなっています。

またコロナに感染した子供達の約6%の方が罹患後症状（後遺症）に苦しんでるとのデータが発表されました。

ワクチンに対するアレルギーなどで接種が無理でない限り、お子様へのワクチン接種をお願いします。

